賣食給與の主なる處を記せば

株式會社日本興業銀行	四十錢以上支給す
久原鑛業株式會社	賣食給與 一ヶ月二十六日分 六圓五十錢
株式會社日本賣夜銀行	一ヶ月六圓の賄料を與ふ
三共株式會社	事務員(二十五錢當り) 交換手(夕食も含む)
合資會社京華社東京支店	給與 一回二十錢位
合名會社玉屋商店	賣食並に夜食を與へ入浴せしむ
日本國債株式會社	會社の指定の中食する場合一食五錢の補助
日ノ出生命保險株式會社	給與 一回約二十五錢
日露實業株式會社	會社から補助し一食十錢で賣食を給す
株式會社第一銀行	午後六時後は夜業辨當料四十錢を給す
順天堂醫院	各人食費を俸給中合算して給す
古河合名鑛業株式會社	賣食料補給一日五——十錢
湯淺貿易株式會社東京支店	拾圓——拾五圓迄賣食料を給す
扶桑海上保險株式會社	賣夜食を給す
淺野同族株式會社	辨當代として一日拾五錢支給
株式會社東京府農工銀行	大部分を補助し一部を自辨
株式會社第一銀行伊勢町支店	賣食現金給與拾四錢內外
大日本紡績株式會社深川工場	賣食は給與せざるも從業員の大部分は寄宿舍に居り一日三食十二錢を以て賄ひ不足分は會社に於て補助す

瀬川小兒科病院	三食とも病院にて給與す
株式會社カフエーパウリスタ	事務員、交換手 なし 喫茶店勘定係 給與
八千代生命保險株式會社	實費の半額補助
山下汽船鑛業會社	出勤日には三食を支給し社長以下同一の食餌を喫す毎日平均二食の原料實費約六十五錢
東京慈惠醫院	看護婦 內勤——三食共給與 外勤——給與せず
日清製粉株式會社	給與
株式會社第六十九銀行東京支店	同
山一汽船株式會社	同
合名會社保華社	同
東洋海上保險株式會社	同
太平洋海上火災保險株式會社東京支店	同
中央火災傷害保險株式會社	同
株式會社不動貯金銀行上野支店	同
株式會社明治銀行東京支店	同
不動貯金銀行日本橋支店	同
株式會社金原銀行	同
村井貿易株式會社	同
株式會社不動貯金銀行	同
株式會社柳田ビルブローカー銀行	同
安田貯蓄銀行	同
株式會社古河銀行	同

株式會社中井銀行　同
合資會社資生堂　同
久原商事株式會社　同
東京火災保險株式會社　同
株式會社村井銀行　同
株式會社商業ビルブローカー銀行　同
日本銀行　同
株式會社村井銀行堀留支店　同

退職手當及年金

退職手當は勤務年數及成績、俸給の多寡等に依つて區々で一定してゐないが、或る處では勤續三ケ年以下では手當のない處もあれば、一ケ年の勤續でも給料の半ケ月乃至一ケ月の手當のある處もある。尚官公廳方面では十五ケ年以上の勤續者（市役所は十ケ年）には恩給、退隱料の制度もあるが民間では年金制度のある處は極めて稀である。主なる處を記せば左の通りである。

退職給與金

一、市吏員退職給與金條例（事務員）

第一條　有給吏員在職一年以上ニシテ退職シタル時ハ左ノ區別ニ依リ退職給與金ヲ給ス

一、在職三年未滿ノ者ニハ退職當時ノ俸給月額ニ在職年數ヲ乘シタル額

二、在職三年以上ノ者ニハ退職當時ノ俸給月額ニ其十分ノ一ヲ加ヘ之ニ在職年數ヲ乘シタル額

三、在職六年以上ノ者ニハ退職當時ノ俸給月額ニ其十分ノ二ヲ加ヘ之ニ在職年數ヲ乘シタル額

一、東京乘合自動車株式會社（車掌）

三年以上勤續者ニハ一ケ月半以上年數ニ應シテ現給ノ四十二ケ月分迄ヲ給與

一、東京慈惠會醫院（看護婦）

勤續年數ニ應シ一ケ年ニ付給料月額ノ半額（內勤ニ限ル）

一、外務省（タイピスト）

在職一ケ年以上ノ者ニ對シ退職當時ノ給料月額ノ二分ノ一以內ヲ在職年數ニ乘シタル金額

一、三越呉服店（店員）

年金制度ナシ、退職手當ハ一ケ年以上年限ニヨリ遞增ス

一、電話交換局（交換手）

三年以上ノ勤續者ハ日給十日分ノ勤續年數倍

一、株式會社東京株式取引所（書記補、事務員、タイピスト、交換手）

勤續二年以上ニ各定率ニ勤續年數ヲ乘シ慰勞金ヲ、十年以上勤續者ニ十年間一定ノ恩給ヲ與フ

一、朝鮮銀行東京支店（タイピスト、事務員、交換手）

年金制ナシ、退職手當ハ在勤一ケ年ニ付大凡二ケ月分

一、株式會社第一銀行（交換手、タイピスト、事務員）

二ケ年以上勤續シ退職又ハ死亡シタルトキハ其現時ノ俸給一ケ月分ヲ在職年數一箇年ニ當テ其年數ニ應スル金額ヲ手當トシテ給與

但シ六ケ月以上ノ端數ハ半ケ年トシテ計算ス

一、合資會社資生堂（金錢出納物品引合、美容、洋服練習生）

一ケ年勤續ノ者ニ壹ケ月位、其ノ他勤續年數ニ依リ支給ス

一、逓信省貯金局（書記、書記補、事務員）

在職年數ニ應シ共濟組合ヨリ既退給與金及年金ヲ給セラル

一、文部省（交換手）

月數ノ半額ニ在職年數ヲ乘シタル額

一、專賣局（交換手、活版工、製本工、給仕）
日給七日分ヲ一ケ年ト計算シ勤續年數ニ乘シテ給與ス

一、株式會社日本興業銀行（事務員、傭員、タイピスト、利札整理事務、交換手）
事務員五年以上在職者ニハ年數ニ應シ慰勞金ヲ給ス五年未滿ニテモ事情ニヨリ支給ス（傭員ハ三年以上）

一、東京驛（出札事務員、驛手）
三年以上ノ勤續者病氣退職ノ場合相當手當アリ、年金ハ共濟組合制度ニヨル

一、日本銀行（事務員、補助員、交換手）
滿一年以上ノ勤續者ニ對シ一時ニ手當金ヲ給ス

一、三井物產株式會社（事務員、交換手、給仕）
勤續一年ニ付月給額半ケ月分、滿五年以上ハ壹年ニ付貳ケ月乃至四ケ月ヲ遞增ス

一、遞信省（書記、書記補、事務員、タイピスト、交換手）
恩給、退官賜金等ノ外遞信省部內職員共濟組合及財團法人遞信協會ノ機關アリ

一、東京鐵道局（事務員、タイピスト）
本省及共濟組合ヨリ勤續年數ニ應シ支給セラル

一、鐵道省（事務員、タイピスト、製圖、交換手）
大正十一年十一月勅令第四七九號ニ依ル

一、遞信省經理局調度課印刷係（製本、印刷職工）
三ケ年以上勤續者退職ノ場合、給料月額ノ百分ノ十（但シ一ケ年ニ付）ヲ給ス

一、小學校（教師）
俸給月額ノ年數倍

病氣及吉凶の場合——病氣の場合は三ケ月迄は全給を支給する處が多いが、中には一ケ月から支給しない處もあり

又二ケ月迄は全額を支給し、引續缺勤の場合には半額、最初から四ケ月を經過すれば無給とする處もある。尙本人死亡の場合は月俸の三ケ月內外を吊祭料として贈る處が多い。

病氣吉凶の場合

一、三菱合資會社
事務員、タイピストニハ病氣缺勤一年ヲ通シ四ケ月間、交換手ニハ同ジク二ケ月半給料全額ヲ支給ス。掃除人ニハ病氣缺勤八日目ヨリ印刷工ニハ同シク七日目ヨリ扶助手當ヲ給ス、其他會社若クハ私的ノ諸施設アリ

一、三越呉服店
病氣ハ藥價ノ二分ノ一補助。吉凶ノ場合ハ夫々金員ヲ送ル

一、三井物產株式會社
病氣ノ場合ハ月給者ハ三ケ月間俸給全額、次ノ三ケ月間半額支給、日給者ハ七日間ハ支給セス八日目ヨリ六十一日目迄半額、百二十一日迄三分ノ一支給、勤續滿五年以上ノモノハ右支給期間二倍、本人死亡ノ時ハ一定ノ吊祭料ヲ會社及共濟會ヨリ贈與ス

一、東京驛
病氣ノ場合ハ藥價ノ半額、休業スレハ給料ノ半額ヲ給與、災厄ニ對スル見舞金アリ

一、貯金局
共濟組合及遞信協會アリ見舞金ヲ給ス

一、電話局
十四日以上引續キ缺勤者ニハ（一年ヲ通シテ）日給ノ半額ヲ三十日分支給ス

一、住友銀行
タイピスト——二ケ月間ハ月俸全額其後尙引續キ缺勤ノ場合ハ二ケ月間月俸半額最初ヨリ四ケ月經過後ハ無給、本人死亡ノ場合ハ吊祭料月俸三ケ月分、交換手病氣ノ場合一ケ月間月俸全額、其後一ケ月間ハ月俸半額最初ヨリ二ケ月經過後ハ無給

產期の保護に就いては、教師以外には餘り見るべきものがない。

修養及娯樂機關――修養機關としては夜間女學校、圖書館の設備、講習、講演會等を開催してゐる處が多く、娯樂機關としては、春秋二季の遠足、運動會、花見、觀劇、音樂會、懇親會等を催じて居る樣である。

左に主なる處を記せば

修養及娯樂機關

名稱	教養機關	娯樂機關
株式會社日本興業銀行	事務員は大部分高等女學校卒業者なる故其後の教育は本人の自由なり	春秋二季に婦人のみにて近郊に其日歸りの遠足會を催す是は婦人自己の發起なり
安田貯蓄銀行(本店)	一ヶ月一回事務打合會を開く	春秋二度運動會及園遊會を催す
瀬川小兒科病院	一週五回看護學講義す、月二三回生花を教授す	年四回團體的遠足をなす
山下汽船鑛業會社	技術修得の指導に任じ又圖書類貸與	社内に設備なし、毎年各期一回園遊會、遠足、運動會を行ふ
株式會社三越呉服店	店員は見習中(二ヶ月)隔日に二時間位教養、小供は店員に昇進す隔日一時間宛教養す	相州鵠沼と府下駒澤とに倶樂部の設備あり
日本醫劵株式會社	圖書雜誌の回覽、時々講演會を催す	運動部あり(野球部テニス部)
蓬萊生命保險相互會社	圖書室の設備あり	婦人雜誌數種あり
株式會社東京株式取引所	なし	社に於て年春秋二期に慰安會を催す
松坂屋いとう呉服店	女子教育委員を置く	目下なし
株式會社臺灣銀行東京支店	なし	各係に會を組織し年二回遠足會を催す
株式會社三菱銀行	なし	倶樂部の設あり(但し實際には利用する事少し
帝國生命保險株式會社	なし	年一、二回觀劇せしむ
大坂海上火災保險株式會社東京支店	一般社員より醵金の上相當の方法を講じつつあり	なし
三菱合資會社		三菱倶樂部の諸設備を利用する事を得
日之出生命保險株式會社	生徒養成機關あり	一年春秋二回慰勞の爲遠足運動す
順天堂醫院	なし	なし
株式會社明治銀行東京支店	講演會等	春秋二回運動會を催す
合名會社保善社	通學の便を與へ講話出場の機會を與ふ	特記すべきものなし
株式會社日本昼夜銀行	なし	新設のものなし然し春秋二季娯樂費を給與す
八千代生命保險株式會社	婦德修養に關する諸雜費を給與	圖書室、活動寫眞
陸軍省	毎月一回乃至二回知名士の精神講話	一年一回官費にて慰安會を行ふ
東京驛	タイピスト養成の機關あり	毎年二回慰安會開催、觀劇遠足運動會等
東京鐵道局	隨時精神講話會等を開きて看護法、講習科には修身の科目を設けあり	毎年一回從業員慰安會を催す
東京市療養所	見習看護婦の養成をなし一般看護婦に對して修身講話を爲す	年一回若くは二回慰安會を開催するの外他に機關なし
東京市施療病院	雇員に限り當局明德女學校に入學せしむ	蓄音機其他私有の樂器を除けば特別の機關なし
貯金局	婦人雜誌二種	一ヶ年二回位の從業員慰安會を催す
東京砲兵工廠庶務課醫務掛	當日職員を以て組織する精修女學校ありて事務終りし後普通女學校程度の科目を授業す	休憩時間中隨時圖書室にて圖書、雜誌、新聞を閲覽する事を得
遞信省	局内に女學校を設け各分局に分校を置き常識、技藝の向上を努む月に二回以上知名の士を招き精神講話會を催す	年二回春秋に慰安會あり
中央電話局	遞信講習所の卒業生のみを收容する。當局に於ては其の必要を認めず從つて其機關なし	運動器具設備の外年一回遠足或は運動會を擧行し月一回各所にて懇話會を開催す
東京中央電信局	看護婦養成所あり	休憩室に娯樂器具及書籍雜誌を備へ休憩時間をして有效ならしむ。年に一回又は二回慰安會を催す。(遠足、運動會、觀劇等)
東京市駒込病院	看護婦養成をなす	圖書部を設け希望の書物の類を貸與す
救世軍療養所		

財團法人 東京慈惠醫院 實費診療所　看護婦に對し時々講習を爲し一般には時々知名士の講演を依頼す　隨意科として裁縫、割烹、茶道、花道の教課　月一回茶話會　年二回慰勞會を開く平素オルガン、蓄音器の設あり

第三節　收入と生計

職業婦人の月收入は四十圓以下の者が六割三分を占めて居り其の五割九分までは、他の補助なくては生活の出來ない者である。補助がなくても經濟上獨立し得る階級は七十圓以上の收入あるもので境遇に依つて其の生計狀態も異るが、未婚者は大部分が補助を受けて居り、補助なしに生活してゐる者は僅三割三分に過ぎない。有配偶者は殆ど一家の生計を補助してゐる者であるが、稀には夫の不具癈疾の場合一家を扶養して行く者も無いではない。離婚者又は寡婦は、補助なしに生活して行くは勿論、尙子供を扶養して行かねばならない苦しい境遇にあるのである。

尙業務別から見れば、教師と看護婦は自活して行く者が多く、事務員、店員は其の過半數以上は補助を受けてゐる者である。(第三十表乃至第三十二表參照)

第三十表　收入と生計狀態(實數)

收入別	生計狀態	補助なしに生活してゐるもの	扶養してゐるもの	補助してゐるもの	補助を受けてゐるもの	計
三〇圓以下		五九人	六人	二二人	二一三人	三〇〇人
三一—四〇		八五	一七	四四	一二五	二七一
四一—五〇		四九	二八	二九	一六	一二二
五一—六〇		三二	一一	二三	四	七〇
六一—七〇		一六	一五	二三	一	五五
七一—八〇		四	八	一九	一	三一
八一—九〇		三	七	一四	一	二四
九一—一〇〇		一	四	六	一	一一
一〇一以上		一	五	四	一	九
不詳		二	一	一	五	七
計		二五一	一〇一	一八四	三六四	九〇〇

收入と生活狀態(比例)

收入別	生計狀態	補助なしに生活してゐるもの	扶養してゐるもの	補助してゐるもの	補助を受けてゐるもの	計
三〇圓以下		一九・七%	二・〇%	七・三%	七一・〇%	一〇〇・〇%
三一—四〇		三三・〇	六・五	一五・八	四四・七	一〇〇・〇
四一—五〇		四〇・八	二二・九	二三・七	一三・〇	一〇〇・〇
五一—六〇		四五・五	一五・五	三三・三	五・七	一〇〇・〇
六一—七〇		二九・一	二七・三	四一・〇	二・六	一〇〇・〇
七一—八〇		二二・九	二五・八	六一・三	—	一〇〇・〇
八一—九〇		一二・五	二九・二	五八・三	—	一〇〇・〇
九一—一〇〇		九・〇	三六・四	五四・六	—	一〇〇・〇
一〇一以上		—	五五・六	四四・四	—	一〇〇・〇
不詳		二九・〇	—	—	七一・〇	一〇〇・〇
計		二七・九	一一・二	二〇・四	四〇・五	一〇〇・〇

第三十一表　配偶關係と生計狀態

配偶別＼生計狀態	補助なしに生活して居るもの	扶養してゐるもの	補助してゐるもの	補助を受けてゐるもの	計
未婚者	三二・七%	九・六%	九・四%	四八・三%	一〇〇・〇%
有配偶者	—	二・六	九七・四	—	一〇〇・〇
離婚者	一八・二	七二・七	—	九・一	一〇〇・〇
寡婦	一四・三	八五・七	—	—	一〇〇・〇
計	二七・九	一一・二	二〇・四	四〇・五	一〇〇・〇

第三十二表　業務別と生計狀態

業務別＼生計狀態	補助なしに生活してゐるもの	扶養してゐるもの	補助してゐるもの	補助を受けてゐるもの	計
教師	一八・二%	二一・二%	五七・六%	三・〇%	一〇〇・〇%
タイピスト	五三・八	—	七・七	三八・五	一〇〇・〇
事務員	二二・六	一〇・六	一六・四	五〇・四	一〇〇・〇
店員	二四・四	九・五	七・二	五八・九	一〇〇・〇
看護婦	七五・〇	二〇・〇	二・五	二・五	一〇〇・〇
交換手	三一・八	七・四	一八・二	四二・六	一〇〇・〇
計	二七・九	一一・二	二〇・四	四〇・五	一〇〇・〇

第四節　家庭生活

結婚生活の準備――未婚の職業婦人は結婚の準備として一面には自己の收入を以て結婚費に當て、他面には、朝夕家事を見習ひ、裁縫其の他の技藝、游藝を習ひ尙且つ、新聞雜誌、書籍等に依つて、女として又人としての修養に努力してゐる者が多い。

家政の處理及小供の養育方法――既婚の職業婦人は家政の處理を家族や女中任せにして置く者が多く、主婦として家政の處理は、僅かに朝夕日曜等に過ぎない。從つて子供の養育の如きも放任勝で理想通には養育出來ない。殊に乳兒を抱へてゐるものは朝夕は母乳を與へられても、晝は止むを得ず牛乳によらなければならないといふ實情にある。殊に留守を託する家族の無い場合には、出勤前に子供の一日のお菓子や、晝の食事の用意などをして出て、歸途惣菜を需めて歸宅し女中と一緒に炊事をするといふ狀態でなか〳〵職業と家政とは兩立し難い憾みがある。

左にこれが實狀調査の爲め發せる質問に對する其の主なる回答を記せば、

一、結婚生活の準備に就いて

教師

一、最もよき女性とならん事に務めます。
一、月給五十圓の中二十圓を割いて毎月貯金して費用をつくり一方獨身の中勉强する積りで、つとめて讀書し講演會等にも行きます。
一、別に結婚生活の準備といふ意味でなく、人として修養を十分に努めたいと存じて居ります。
一、家事經濟の研究。
一、結婚しなくてもよい考です。
一、結婚生活の準備をなす意なし、高尙なる趣味を求め、多少なりとも貯蓄して老後の慰安を得たいと思ふ。
一、此のことに就いては今迄餘りに呑氣でありすぎたと思ひます。物質上に就ては別に心配も用意も自分ではいたしません。其の外のことは近きにあるそのことのために少々あわて出して苦笑し且つ悔いてゐるだけです。

タイピスト

一、料理、裁縫等の家事に必要なものは、結婚後習得するとして、今は廣く讀み、廣く見、人としての自分をつくるに忙しいのです。そ

れが結婚生活の準備で他に何もなし。
一、人格完成又は戀愛完成の途に於ての一手段として結婚を觀て居りますが、それは誠に重大な問題でまだ確かに、自分は結婚をするであらうとは思つて居りませんから直接結婚生活の準備を致しては居りません。
一、精神的、物質的に常に向上を心掛けて居たら、それがやがて準備にならうかと思ひます。
一、別に結婚生活の準備は致しません、修養向上に努めて眞の人として教養を持ちたいと思つてゐる。
一、今の所結婚生活の事など考へる餘裕がありません。

事務員

一、深く結婚と云ふ事に對して考へて居りませんが、只女として一家の主婦として普通の女にだけなりたいと及ばず乍心掛けてゐます。
一、女は自分の理想を實現せんとしても、現代の社會では又不可能に思ふ故に運を天に委せ、婦人として取るべき道を取らんとして、日夜苦心してゐます。是が準備です。
一、家庭にあつて凡てを經驗し、又聖書に依つて精神の修養につとめる。
一、常に新刊の書籍を讀み、頭腦の退歩をふせぎ、物質的準備は今の所考へなし。
一、物質の準備は薄給の私共には出來ませんが、精神上の準備は十分にしてある。
一、特に結婚生活の準備をしては居りません。女としてなす事又心がけを敎へられてゐる。
一、常識を養成したいため、種々習得し尙確實なる生活の保證を得るため、或る種の資格を得る準備をなす。
一、常識圓滿な時代にふさはしい主婦となるべく心がけて、總てに注意してゐます。
一、裁縫、料理等婦人として、必要な事一切習ひ度く、進み行く世の中に後れぬ樣、英語なども覺え、知識を求める事に務め、妻として夫の職業を理解し得又子女の敎育などに夫の內顧の憂の無き樣に、出來るだけの心の準備を致し度く、物質上の準備は、兩親がして下さるだけで滿足である。
一、未だ個人として考へた事なき私は、好きざるも夜毎に敎はる裁縫、婦人修養雜誌、月六圓の貯金とが結婚の準備とも申すべきや否。
一、社會の一員となり、又母となる爲めには、最少し精神的にも、敎育の方面にも準備したいと思ふ。

一、裁縫、料理、生花を習ひ、そして女學校の夜學に行き家事を見習ふ。
一、休日には裁縫、家事の手傳をなし、種々の雜誌等より家庭に對する知識を得てゐる。
一、此の二三年は大に心身の修養に心掛け、尙生活改善の研究もしたいと思ふ。
一、良妻賢母たらんと忘らず修養してゐる。
一、許嫁の夫にゆかれたので、最早結婚などする考へは更になし。
一、妻として女性として、恥ずかしくない樣に修養する。
一、薄給の身で到底準備の餘裕はありませんが、なる丈兩親の補助を輕くする樣に心掛けてゐる。
一、精神的な事は雜誌等にて、幾分か出來ますが家事交際上の事は、餘暇がありませんので、誠に殘念ですが出來ません。
一、結婚生活を好まず、少しも準備せず。
一、結婚生活の準備よりも、如何にして補助無しに生活し得るかが、現在の私であります。
一、夜は裁縫に通ひ、土曜と日曜には、お茶と生花を稽古してゐる。

看護婦

一、結婚の意志なし。
一、物質上にも人樣の樣に、親からして頂く事は出來ませんから、自分で用意をしてゐます。それで心の準備が第一に必要と思ひますから、朝夕出來る丈修養して居ります。
一、私は自分一人でさへ、統一出來ないやうな女で、結婚と云ふ事を考へるのが、恐しい氣が致します。こんな者が結婚した所で、きつと其の夫や子供迄不幸の淵に引き入れてしまふだらうと思ひます。優生學上より論じても私のやうな者は、やはり獨りで死んで行く方が良いと思ひます。

店員

一、先づ何よりも自己の修養に勤め、精神的に充實せる女性となる事が必要と思ふ。
一、日々の勤務の爲めに、修養も忘り勝になつて思ふ樣になりません。

一、結婚と言ふ事は、人生の一番重大な問題ですから、自己の自由意志に依て其の配偶を求め、新しい家庭を構成して行かねばならない事を自覚します。從つて思想上、實際生活上それを自ら處理出來る丈の修養に勤めてゐます。人格本位の結婚故世間並の嫁入仕度は望みません。

一、健康な體と修養の積んだ心を準備致さうと存じます。

一、結婚後の生活狀態の如何なるかを味ふ其第一歩に職業婦人として、社會的辛酸を研究してゐます。

一、日給者故遅刻、缺勤等を差引かれた時には準備が出來ません。

交換手

一、母無きため、家政を處理する事に務めてゐます。

一、姉と二人で漸く生活するのですから、精神的には雜誌等で修養してゐるが、物質上には何にも準備が出來ません。

一、父は足を切斷し不具者と成りました。此春頃より精神病に罹り、私の留守の間は親戚の者に面倒を見て貰ひ、私が歸宅後父の事や家事をしなければなりませんので結婚の事など考へません。

一、母に就き裁縫、料理等を習ひ、主婦としての準備中です。

一、結婚準備としては御座いませんが、修養しながら獨立し得る職を覺えたいと思ひます。

一、生計補助のため準備出來ません。

二、家政の處理及子供の養育方法に就いて

教師

一、育兒、交際、家計の家政の整理萬事一身に引受けて致します。子供の養育に就いては、第一に身體に注意して個性を重じ、之を助長せしむる方法をとります。境遇上附近の狀況に鑑み、幼稚園補育を願つて置きます。

一、朝七時より夕四時半頃まで、學校に居りますので意の如く出來ません。

一、子供も始めてですから、理想的にと思つて居りますが、世間出來ないので心もとなく思つてゐます。餘り丈夫で無いので、健康を主にのんびり育てたいと思つて居ります。

一、平常不在勝なれば、日曜、夜分等に女中に瑛定を示しては行はせます。子供に就いては多く女中の手を借るが、方針としては健康に注意し、獨立心と自治心を作ることに努めてゐます。

一、誠に殘念ながら、充分に手が屆かず理想通に行きかねます。

一、常に女中任せとて實にお恥しき狀態なり、子供の養育上住居も凡ての不便を忍び・郊外の閑靜なる地を選び動物の飼育、植物、花卉を植ゑて樂しましめ、高尚なる情操を養ひ且つ健康の保持につとめます。

一、世間に後れぬ樣、男親が無くてもと思ふ身は却つて子供をして依賴心を起させます。

一、時間に制限ある身は、家計簿の如きはとても實行困難なれば收入の中から子供の教育費、不時の場合の用意、老後の準備費等を引き去りて、殘りの金全部を母に任せ、其月月の暮し向とする。子供は無邪氣でひねくれぬ樣に育てるつもりである。

一、母と妹とに留守に於ける家事一切を委す。出勤前と歸宅後と日曜、休日に最大限の愛情を以て子供の養育に盡す。

一、優しい、女らしいオットリした、そして怜悧な女に育てたいと思ふ。

一、出勤中は姑や女中に、子供の指圖を賴み、夜分に凡ての整理をなす。

一、女中に一切を任せ、子供となるべく遊ぶ樣に仕事を餘り命じないで置く。

一、日常は歸宅後、炊事をなし後裁縫を致し休みには洗濯屋外の掃除等をなす。

一、炊事はするが裁縫は多く仕立やへ出す。子供は健康に注意し個性の發達につとめる。

タイピスト

一、勤める者は夜のみ、自分の時間で、それも僅ですから充分處理する事は出來ません。

事務員

一、現在は滿ち足らぬ生計をつづめるべく務めて居りますから、凡て自己の趣味もすて、家政の處理も母にのみにたのんでゐます、

一、家政の處理は只今の處母に一任して有ります。

一、小供の養育に就いては世間は牛乳で母が育てて下さいますから大變に幸福です。歸宅後は母乳を與へて育ててゐます。

一、買物は少し遠くとも安い所へ行き、主人の俸給よりは、天引して貯金をし自分の方も十圓づつ殘します。

店　員

一、職業のため希望通りには、家政を處理することは出來ません。
一、目下の處、不本意ながら、終日留守のため一家の事は老人に託してあります。

第五節　閑散時の利用方法

職業婦人は、日曜、祭日其の他の閑散時を、裁縫、洗濯、掃除等家事の整理に費す者が大部分であるが、尚各自の趣味に依つて讀書するもの、講演、講習、音樂會等に出席するもの、教會に行くもの、琴、三味線、ピアノ、生花、謠曲、茶の湯等を稽古するもの、郊外散歩、或は親戚友人を訪問するもの、編物、刺繍等の手藝を練習するもの、芝居、活動等に行くもの等夫れ〳〵自己の趣味、娯樂方面に費してゐるのである。

而して讀物の大部分は、新聞雜誌で書籍は僅かに其の購讀力三割六分といふ狀態である。尤も業務に依つて其の購讀力も異り、教師、タイピストの如きは、新聞雜誌を購讀しない者は稀である。書籍も六割四五分は讀んでゐる。けれども交換手、店員は書籍の購讀力は極く尠く、交換手は僅に二割一分、店員は二割六分といふ有樣である。

尚讀物に就いて其の內容を見るに、新聞は東京日日、讀賣、東京朝日、時事、萬朝、國民、報知といふ順で、雜誌は婦人公論が最も多く、次は婦女界、主婦の友、婦人世界、女學世界、女性、婦人倶樂部といふ順であり、何といふても婦人雜誌が優勢で延人員千百八十三人中、六百三十人を占めてゐる。次は一般思想雜誌の二百七十七人で、中婦人公論の百九十六人を除けば、中央公論の二十七人、女性改造の十五人、改造の十三人、解放の四人がその主なるものである。教育學術雜誌、少年少女雜誌、文藝雜誌等の購讀者は極く僅かである。書籍は小說、戲曲、詩等、創作に關するものが大部分で、教育學術に關するもの、一般文學に關するもの等之に次ぎ、一般思想に關するもの、婦人に關するもの等は餘り購讀されてゐない。

左に閑散時の利用方法、讀み物の購讀狀態、趣味、娯樂等に關する回答の主なるものを記せば、

一、閑散時の使用方法

教　師

一、家政の整理、音信、訪問、讀書
一、子供を連れて公園散歩、讀書
一、家政の整理
一、家族の者と共に散歩、知人訪問
一、家事の整理、友人、親戚訪問
一、家事の整理、教授上の研究、散歩
一、家事の整理、郊外散歩、寫眞
一、家事の整理、宗教の話、講演會
一、掃除洗濯、裁縫、散策、婦人會等に出席
一、家事、謠曲、子守
一、家事の整理、かきざらさ
一、掃除、洗濯、裁縫、買物
一、原稿を書く、裁縫、子供と遊ぶ
一、洗濯、裁縫、習字、散歩

一、家事、讀書、編物、生花、觀劇、子供本位の散策
一、自炊、洗濯、裁縫、訪問、講演會、教會出席
一、教會出席、ピアノ練習、子供の復習相手
一、自炊、友人と散歩
一、洗濯、裁縫、音樂會
一、裁縫、鶏小屋の掃除、郊外散歩
一、家事の手傳、讀書、散歩、觀劇
一、讀書、圓卓會、其他の遊び
一、裁縫、洗濯、讀書、散歩、習字
一、給ゝ拵きに出掛ける
一、家事、圓遊
一、裁縫、琴、折花
一、家政の整理、兒童自作文の添削
一、家事、散歩、讀書
一、家事の整理、散歩、雇人を遊ばしむ
一、裁縫、洗濯、訪問、讀書
一、家事の整理、オルガンの練習

クイビスト

一、洗濯、裁縫或は遊びに出かけます
一、家事の手傳、遊びに行く
一、裁縫、洗濯、編物

一、お仕事の合間に郊外散策
一、讀書、編物、組ざし
一、裁縫、洗濯、音樂會行、讀書
一、年日誌、系統的な物をします
一、衣類の整理、訪問、教會出席
一、洗濯、掃除、教會行、訪問、散歩
一、讀書、家事、接客、訪問、運動
一、主に裁縫してゐる
一、編物、洗濯、訪問、オルガンの稽古
一、洗濯、裁縫、來所の用事
一、編物、洗濯、讀書、生花、散歩

事務員

一、家事の手傳、讀書、三味線の稽古
一、洗濯、裁縫、訪問、琴の稽古
一、裁縫、衣類の整理、讀書、刺繍
一、裁縫、子守
一、洗濯、裁縫、散歩、日曜學校へ行く
一、洗濯、裁縫、教會行
一、家事の手傳、裁縫、休養
一、洗濯、裁縫、散歩、生花、技藝
一、讀書、唱歌の稽古、訪問

一、炊事の手傳、店の手傳
一、觀劇（兩親の許を得月一回位）
一、讀書、身の廻りの整理
一、徹夜故十分就眠して休養す
一、洗濯、金光教の說教を聞きに行く
一、家事の手傳、裁縫、手紙を書く
一、家事の整理及內職
一、家事の手傳、裁縫、音樂の練習、草花の手入
一、夜學に行くため、疲勞して本を讀む位

店員

一、裁縫、訪問、讀書、詩作及感想等を書く
一、筑前琵琶の稽古
一、洗濯、身體の休養
一、洗濯、裁縫、訪問、髮洗ひ
一、小供のよろこぶ樣な事をして、時々の休日を樂しませて葬す
一、裁縫、讀書、時折母を訪ねる
一、神佛詣り
一、家事の手傳、散步、觀劇
一、のんびりした心で送ります
一、裁縫、三味線の稽古
一、洗濯、裁縫、琴の稽古

看護婦

一、洗濯、裁縫、讀書、音信、習字
一、弟の家に行きて遊ぶのが樂しみ
一、裁縫、讀書、琴を習ふ
一、夜店で文學雜誌や小說などあさり步くのが好き、芝居や活動を好むが人の中へ出る事が病的なほどいやで大抵は讀書、編物をして暮す
一、教會出席、外出、用達
一、裁縫、訪問、讀書
一、裁縫、休養
一、讀書、編物
一、兩親の許へ歸る
一、テニスをなす
一、衣服の整理、散步、觀劇

交換手

一、炊事、洗濯、掃除、裁縫、生花
一、家事の手傳、音樂會に行く
一、裁縫、勉强
一、家事、整理、訪問、生花、音樂
一、身體の休養
一、洗濯、裁縫、讀書、編物
一、水と遊びに行く

一、炊事、洗濯、裁縫、讀書、タッチング
一、洗濯、裁縫、散歩、讀書、琴曲
一、散歩、訪問、觀劇、衣服の整理
一、洗濯、掃除、裁縫、入浴
一、洗濯、裁縫、讀書、琴曲、編物
一、散歩、讀書、教會へ行く

二、讀物購讀狀態

第三十表　業務別に依る讀物購讀（其一）

業務別 ＼ 讀物の種類 ／ 購讀の有無	新聞			雜誌			書籍		
	讀むもの	讀るもの	計	讀むもの	讀るもの	計	讀むもの	讀るもの	計
教師	一三一人	一人	一三一人	一二五人	七人	一三二人	八四人	四八人	一三二人
タイピスト	二五	一	二六	二五	一	二六	一七	九	二六
事務員	二五八	三四	二九二	二三九	五三	二九二	一一三	一七九	二九二
店員	一四五	二三	一六八	一三二	四六	一六八	四四	一二四	一六八
看護婦	二八	一二	四〇	三二	八	四〇	一八	二二	四〇
交換手	二二三	二九	二四二	二〇四	三八	二四二	五一	一九一	二四二
計	八〇〇	一〇〇	九〇〇	七四七	一五三	九〇〇	三二七	五七三	九〇〇

第三十一表　業務別に依る讀物購讀（其二）

業務別 ＼ 讀物の種類 ／ 購讀の有無	新聞			雜誌			書籍		
	讀むもの	讀るもの	計	讀むもの	讀るもの	計	讀むもの	讀るもの	計
教師	九九・二%	〇・八%	一〇〇・〇%	九四・七%	五・三%	一〇〇・〇%	六三・六%	三・六四%	一〇〇・〇%
タイピスト	九六・二	三・八	一〇〇・〇	九六・一	三・九	一〇〇・〇	六五・四	三四・六	一〇〇・〇
事務員	八八・四	一一・六	一〇〇・〇	八一・八	一八・二	一〇〇・〇	三八・七	六一・三	一〇〇・〇
店員	八六・三	一三・七	一〇〇・〇	七二・六	二七・四	一〇〇・〇	二六・二	七三・八	一〇〇・〇
看護婦	七〇・〇	三〇・〇	一〇〇・〇	八〇・〇	二〇・〇	一〇〇・〇	四五・〇	五五・〇	一〇〇・〇
交換手	八八・〇	一二・〇	一〇〇・〇	八四・三	一五・七	一〇〇・〇	二一・一	七八・九	一〇〇・〇
計	八八・九	一一・一	一〇〇・〇	八三・〇	一七・〇	一〇〇・〇	三六・三	六三・七	一〇〇・〇

雜誌購讀內容表（其三）

業務別 ＼ 種別	婦人雜誌	文藝雜誌	教育學術雜誌	少年少女雜誌	一般思想雜誌	其他	計
教師	一一六人	一三人	四〇人	二人	一〇四人	三〇人	三〇五人
タイピスト	一八	二	二	一	一九	六	四七
事務員	一九二	二二	七	二	八三	四三	二四九
店員	一九五	四三	六三	八二	三〇	一三	一四九
看護婦	一九	四	一五	九	一三	一〇	五七
交換手	一〇	四	三	二	二八	一〇	二七六
計	六三〇	三八	七三	五三	二七七	一二二	一、一八三

書籍購讀內容表（其四）

種別／業務別	一般文學（小說、戲曲、詩）に關するもの	教育學術に關するもの	藝術に關するもの	一般思想に關するもの	宗教に關するもの	修養に關するもの	家政に關するもの	婦人に關するもの	其他のもの	計
教師	四四人	一八人	三八人	六人	八人	一人	一〇人	三人	六人	一三七人
タイピスト	一三	三	三	二	三	一	一	一	二	二九
事務員	七九	一六	一五	一〇	一九	八	一	三	一一	一六四
店員	三三	一三	二	四	七	二	一	二	二	六七
看護婦	一一	四	七	二	三	三	一	一	一	三〇
交換手	四三	九	九	二	二	一	二	一	二	七二
計	二二三	六三	七四	二七	四二	一六	一三	九	二三	四九九

讀物購讀狀態一覽（其五）

新聞之部（延人員一、〇二四人中）

新聞名	講讀者數	新聞名	講讀者數
東京日日新聞	一五一人	東京朝日新聞	一三七人
時事新報	一〇五	國民新聞	一〇四
報知新聞	七九	都新聞	六一
やまと新聞	四五	中央新聞	一八
二六新聞	一二	大東京新聞	二
大阪毎日新聞	二	教徒	一
中外商業新聞	一	官報	一
其他	八		

新聞名	講讀者數
讀賣新聞	一四四人
萬朝報	三二
東京毎夕新聞	一二
東京毎日新聞	五
東京夕刊新聞	二
大勢	一
埼玉朝日新聞	
不定	

雜誌之部（延人員一、一八四人中）

婦人雜誌（六三〇人）

主婦の友	一四四人	婦人世界	八六人
婦人倶樂部	三二	女性	三二
家庭雜誌	一二	婦人畫報	六
淑女畫報	五	母之友	五
新家庭	二	文化婦人	三
世帶	一	其他婦人雜誌	四二

文藝雜誌（三八人）

文章倶樂部	五	演藝畫報	二
音樂雜誌	二	花道	二
泉	二	演藝之友	一
活動畫報	一	中央美術	一
歌舞少女	一	童話	一
新生	一	寫眞通信	一
書道研究	一	雪の桂	一

教育學術雜誌（七三人）

教育研究	九	教育雜誌	八
兒童教育	四	都市教育	三
婦女界	一八人		
女學世界	四九		
婦人之友	二〇		
良妻の友	三		
料理の友	三		
婦人界	一		
新小說	七		
新潮	二		
明星	二		
演藝	一		
文學世界	一		
人と藝術	一		
詩雜誌	一		
オペラ	一		
早稻田大學			
高女講義錄	二三		
女子大學講義錄	六		

理科教育　二
早稲田大學文學部講義錄　二
科學智識　二
理學界　一
細學練習錄　一

少女畫報　一六
少女世界　七
女學生　二
少女の國　一

婦人公論　一九六
改造　一三
太陽　二
文化生活　二
表現　一

希望　二三
受驗と學生　三
ポケット　二

小學校教師講義錄　二
和洋裁縫講義錄　二
科學世界　一
教育評論　一

少女の友　一〇
みどりの友　三
少女界　一
譯海　一

一般思想雜誌（二七七人）
中央公論　二七
女性日本人　九
思想　二
新眞婦人　一
日本及日本人　一

其他の雜誌（一一三人）
宗教雜誌　四
通信協會雜誌　二
修業雜誌　一

小學校　二
和洋裁縫講義錄　二
科學世界　一
教育評論　一

令女界　九
子供雜誌　二
女子の友　一

女性改造　一五
解放　四
先驅　二
現代　一
文化運動　一

講談雜誌　三
衞生雜誌　二
聖書研究　一

商店界　一
實業の日本　一
新らしき村　一
アアラタイス　一

商店雜誌　一
新青年　一
講談倶樂部　一
其他　二四

實業の世界　一
平家物語　一
面白倶樂部　一
不定　三八

書籍之部、延人員五一〇人中）

創作（少說、戲曲、詩）に關するもの（二二三人）

出家と其弟子　二八
部　思　五
死線を越へて　一六
親鸞　五
老子　五
星座　二
彼岸過ぎまで　四
破船　五
荆棘の路　一
東京（勞働篇）　一
白路　二
新らしき生へ　一
なやめる釋迦　一
獨歩全集　二
小島の來る日　一

父の心配　一七
布施太子の入山　五
太陽を射るもの　三
受難の親鸞　三
愛すれば こそ　五
新約　三
行人　一
地をつぐもの　一
草の夢　一
寄生木　一
無限　一
野天の光　一
虐げられし人々　一
麥笛　一
ジャンクリストフ　四

砦はぬ人　八
叱達太子の入山　四
人間親鸞　一〇
女性を體認せる親鸞　三
宣言　四
相ひ寄る魂　二
女の中の女　二
朝の影　一
指環外道　一
地上　一
反抗　一
生の凱歌　一
新生　一
慈悲心鳥　一
何處へ行く　三

カラマーゾフの兄弟　二
人形の家　三
煙　一
沈鐘　一
トルストイ傑作集　一
シュニツレル選集　一
ハウプトマン作選集　一
藤村詩集　三
萬葉集　一
現代婦人詩歌集　一

百科全書　三
常識泉　二
自然と人生　一
櫻の實の熟するまで　一
幸福者　一
氷川清話　一
死美人　一
文學概論　一
日々の力　一
增鏡　一

ラミゼラブル　二
ボヴァリイ夫人　二
野鴨　一
喫けるる　一
モウパッサン全集　一
ツルゲネーフのその前夜　一
其の他の創作　四
一葉集　二
紅葉集　一
愛吟　一

ナナ　三
死の勝利　一
闇の力　一
ワレンシュタイン　一
百路大地の崖　一
罪と罰　一
詩集　一二
金鈴　二
ホイットマン詩集　一

一般文學に關するもの（六三人）

歷史傳記　二
徒然草　二
吾輩は猫である　一
近代文學十講　一
新らしき村の生活　一
感想十年　一
玉手箱　一
生くる日の限り　一
現代思想及文學　一
靜かなる眉　一

江戸から東京へ　二
日本から日本へ　一
飯倉だより　一
荷風全集　一
絶對の悲哀に浴して　一
麒麟　一
ダンテと其時代　一
日蓮　一
旅する心　一
理想の眞隨　一

協い世界　一
人生を超越する力　一
文藝　一
趣味の泉　一
水蜜傳　一
夏目、德富、生田、岡本氏等の著書　一
默示錄の四騎手　一
ロビンソンクルオレ　二

札幌記　一
人生の學校　一
愛の時代　一
青年　一
大町桂月の著書　一
獨立者の宣言　一
ダンテ物　一
孤獨の行者　一
人及び藝術家としてのトルストイ　一

地の鹽　一
天路歷程　一
彼女と青年　一
夢物語　一
太平記及近松馬琴　一
聖書及び花ことば　一
人間苦　一
象牙の塔を出でて　二

教育學術に關するもの（七四人）

教科書　一四
八大教育主張　二
參考書　二
希臘學の本　二
育兒學　一
實驗教育學　一
乳兒の育方　一
心理考査に關するもの　一
心理學　一
國民道德裁縫教授　一

英兒童心理學　五
兒童心理學　二
作文　二
兒童心身の發達　二
教育學と文化　一
教育家傳　一
藝術教育　一
愛兒の躾け方　一
實驗心理學　一
日々の教授に必要なる心理學　一
教授書　一

兒童心理に關するもの　四
國文教科書　二
產婆學の本　二
八大教育家傳　一
耳と目との教育　一
教育大意　一
教育に必要なるもの　一
教育的心理學　一
修身教授革新論　一
小兒教授法　一

我が子の惡德　一
標本全集　一
和譯學教科書　一
體育上の諸問題　一
生命論　一
教育傳習所の准教員本科の教科書　一

藝術的方面　一
ラスキン經濟的美術觀　一
俳句　一

愛と認識との出發　七
相對性原理の研究　二
惜みなく愛は奪ふ　一
國民道德　一
世界文化　一
自由人となるまで　一

宗教書　五

童謡と子供の生活　一
ニオン化學實驗書　一
學實驗書　一
眠と神經衰弱　一
の研究　一

藝術に關するもの（九人）
泰西畫家傳記　一
箏曲歌集　一
道歌物語　一

一般思想問題に關するもの（二七人）
亡び行く宇宙及び人類　一
アインスタインの相對性原理　二
哲學　一
社會運動　一
ガンディとガンディズム　一
人は何によつて生るか　一

宗教に關するもの（四二人）

聖書　四

ペスタロッチ　一
リーダー類のもの　一
歐米理科　一
精神檢査書　一
心理學上より死後の生命　一

音樂と個性　一
和歌　二

現代思想十六講　二
人生論　二
思潮　一
勞銀制度　一
ガリレオよりアインスタインまで　一

新約聖書　一

舊約聖書　一
星より星への通路　二
キリストへの道　二
基督再臨問題講演集　一
靈文錄　一
日蓮上人の教義　一
懺悔錄　一
佛教書　一
經書　一

宗教的なる本　三
懺悔の生活　二
ルーテル　一
十字架　一
法華經講義　一
法然上人　一
靈の秋　一
煩悶と自由　一

宗教に關するもの　二
聖フランシス　二
聖貧禮讃　一
ニイチエの反キリスト　一
法華經小冊（和訓）　一
靈の叫び　一
宗教と人生　一
イエスの人格　一

修養書　六
人格の力　一
日常の心得　一

修養に關するもの（一六人）
日々の修養　五
精神修養　一

現代と修養　一
修養に關するもの　一

家政に關するもの（一三人）
家庭醫學　二
家事研究　一
文化生活　一
家庭的方面　一

家庭寶鑑　一
私學的家事精說　一
生活改善的家政學上、下　一
裁縫書　一

家事に關するもの
系統的家政講話　一
家事百般　一
家庭と衛生　一

婦人に關するもの（九人）
婦人の使命　二
婦人問題講演集　一
婦人文化研究書　一

婦人常識百話　二
女人の爲に　一
處女講話　一

是丈けは心得て置くべし　二　エレンケイ兒童の世話　一　友情　一
聖代四十五年史　一　木堂談　一　貝原益軒　一
其の他　九　不定　七

三、趣味、娯樂　愉快なこと、樂しみなこと、得意なこと、好きなこと）

教師

一、一家無病で主人や子供が機嫌よく打ち揃つた土曜日の晩。
一、歸宅の際子供の嬉しげな笑顔を見る時。
一、主人と同伴で散歩すること。
一、思ふ樣に生徒を導くことの出來た時、家庭で皆の者に（子供）滿足を與へた時。
一、家の中が整理できた時。
一、子供を中心として生活して居ります私には、子供をのけて外に樂しみなことはありません。
一、一家團欒。
一、讀書、散歩、音樂。
一、音樂、習字、歌ふこと。
一、觀劇、活動。
一、園藝、手藝。
一、遊戯、ダンス、ピンポン。
一、文藝の觀賞、句作、詩作。
一、批評教授など、いやなことが無ければ、學校で子供と共に居るのが樂しみ——兩親をよろこばす事。
一、學校で子供に接する時又は時々客を招いて諸曲會を開き又は講演をきくこと。
一、海水浴をなしつゝ水泳の練習をなすこと。
一、彈琴、挿花、ピアノ。
一、繪を描くこと。
一、子供と遊ぶこと、音樂をきくこと。
一、氣持よく授業の出來た時。
一、文學と音樂。
一、讀書、旅行して自然に接すること。
一、和歌の上手に出來た時、原稿の書き終へた時。
一、讀書、西洋名曲のレコード。
一、讀書、學校を離れた軽い氣持で音樂を聞くこと。
一、老父のよろこびを得た時及兄弟に學問をさせること。

タイピスト

一、活動、讀書、歴樂。
一、目的のある拵し方、人の悦びを眺めること。
一、運動、編物、手藝。
一、琵琶、園藝、思想にふける時。
一、音樂、讀書、散策。
一、一家團欒、趣味としては茶の湯。
一、退社後、家庭で自由に休んでゐる時。

事務員

一、寢るのが一番樂のしみ。

一、讀書、散歩。
一、讀書及音樂。
一、音樂、散歩、寢る事。
一、詩集を讀んで居る時。
一、土曜日がいつも樂しみ。
一、琴、生花、茶の湯を習ふ事。
一、琴と三味線のおさらへ。
一、音樂を聞くこと、劇を見ること。
一、讀書、寫眞、撮影。
一、讀書、芝居。
一、讀書、音樂、手藝。
一、婦人講演會に行くこと、讀書及冥想にふける時。
一、隔日勤務のため、交代に家庭の人となるが最も樂しみ。
一、氣の合つた同志の會合及長唄の研究。
一、出來得れば、夜靈歌をうたひたいと思ふ。
一、探偵小說及恐しい小說をよむのが何より樂しみ。
一、作文、和歌、俳句をつくり又は讀書すること、
一、お掃除の濟みし室にて讀書に耽ること、遠足に出掛ること。
一、澤山な仕事を奇麗に片附けて沈みかゝた夕日をあびながら家路につく時。
一、徹夜明けで歸り、朝食をすませ、二階の靜かな室に新聞や雜誌を見ながら、安らかに眠りにつく事。
一、毎月一回づつ宗教的精神修養の話をうかがふ時、不幸も苦しみも惱みも一掃されて實に樂しい心になります。
一、旅行して自然の風光に接する事が何より樂しみ、芝居や活動は餘り好まず。
一、靜かな野原で繪をかくこと。

一、マンドリン等彈くこと及郊外散歩等。
一、親しき友と山に海に旅行し、大海原に聲限り歌ふこと。夜は灯の下で讀書、これ以上の樂しき愉快なことはない。
一、私は別に樂しみはありません。お役所で發行して下さる無賃乘車證に依り度々歸省することが出來ます。それが樂しみです。
一、旅行と俸給日と食べること。
一、一週に一度二度位夜琴を調べること又針仕事をする側で蓄音機をかけて貰ふ事。

店員

一、家へ歸へつておやつを頂く時。
一、虐げられた人、變人を友をすること。
一、お休みに靜かな所へ行つて考へること、又獨り讀書すること。
一、教會へ行き讃美歌をうたひ、精神的な話をきゝ又友達と無邪氣に遊んでゐる時。
一、母からの便りを受けた時、一日疲勞を忘るべく、歸宅してから靜かに歌ふ時。
一、音樂、編物。
一、貯金すること。
一、衣服の整ふのが樂しみ。
一、長唄、芝居、繪畫。
一、體が疲勞しますから寢るのが一番樂しみ。
一、公休日、讀書、音樂を聽く。
一、一日の職務を果し一家揃つて色々談笑するとき。
一、琴曲、生花、芝居、活動。
一、廻らぬ乍らも和歌、俳句等を作り、又年一回の旅行、市外散歩、又箏曲も樂しみの一つ。
一、生花、琴曲、茶湯、ピアノ、バスケットボール。
一、刺繍、小供服の研究。
一、長唄、習字。

一、看護した病人が全快した時、心から嬉しく思ふ。又休み時間に讀書したり洗濯したりすること。
一、與へられた位の時間にも一室に閉ぢ籠つて思想に耽る時。
一、讀書、筑前琵琶。
一、讀書、音樂、活動。

交換手

一、休日に金龍館へ行くこと。
一、着物を着るのが樂しみ。
一、働いて喜ばれるのが樂しみ。
一、用が濟んだ後で婦女界を讀むこと
一、たまに好きな芝居を見た時は平常の苦しみを忘れます。氣持よく過した日の歸途電車に落ち付いて腰かけた時。
一、讀書、音樂、草花の培養。
一、終日の疲勞を家族の談笑に紛らし、いざ就寢といふ時の安らかさは、職業持つ者にのみ受くる特典ならんか。
一、俸給の幾分かにて珍らしき物を買ひ、妹や母に送ることが何より樂しみ。
一、働いて家に歸へるのが樂しみ。
一、俸給に依つて自分の物が出來る時。
一、土曜日に日比谷の音樂を聽きに行くのが樂しみ。
一、裁縫、觀劇。
一、音樂を聽くこと、裁縫。
一、音樂、繪畫、ダンス。
一、常磐津、琴曲、茶の湯。

第六節　婦人團體と婦人運動

婦人は一般に團結力に乏しい。職業婦人の如きも團體に所屬してゐる者は、僅かに總數の二割三分に過ぎない尤も業務や配偶關係に依て一樣ではない。教師などは其の六割まで團體に所屬してゐるが、看護婦、店員などは一割未滿である。又未婚者は、既婚者よりも團體所屬の割合が尠い。即ち前者は一割九分に當つてゐるに反し後者は四割八分である。

而して其の所屬團體は、職業に關聯した修養團體か、趣味娯樂、宗教に關する團體が大都分で、婦人運動と目すべき團體に所屬してゐる者は、極く尠い樣であるが、婦人團體に關する各自の感想等に依つて見れば、婦人運動に就いては、よほど自覺して來た樣である。其の一例としては先般全國小學校女教員會が男子の手を離れて獨立し一致團結した事である。之等は我職業婦人界のため、大いに意を强うするに足ると云ふべきである。

左に婦人團體に關する希望並に感想事項等の回答及主なる所屬團體を記せば。

一　婦人團體に關する希望及感想事項

一、職業婦人協會を組織し、種々の方面に活動致し度いと思ふ。
一、職業婦人の向上を目的とする、會の成立を希望す。
一、社會局にて職業婦人會等計畫する樣希望す。
一、傷兵慰問會を起したい。
一、婦人向上會組織の企策中。
一、教育事業の進歩をはかる爲め、父母會を組織したい。

一、消費組合を組織したい。
一、同好の友と思想上の雜誌を作り度いと思ふ。
一、金がたまれば俊才教育をしたいと思ふ。
一、子供の世界にも劇を普及させたい。
一、自分の理想的な學校を設立したい。
一、苦學生の救濟をしたい。
一、貧民救濟事業又は慈、學問の出來ない人達を無月謝にて教へる立派な女學校を設立したい。
一、慈善事業を擴張したいと思ふ。
一、世にも哀れなる子女に對し、眞實涙き眞心を以て養育し成人させ様と思ふ。
一、地方出の學生を家庭味のある宿舍を作つて收容したい。
一、未婚の職業婦人の爲にアパートメント式の宿舍を設立したい。
一、もとすれば着物の自慢會に成りそうな、此頃の會は凡べて好みません——弟妹が澤山ありますから、弟妹クラブを作りたい。
一、現在私が既知のもの私の意志に適合致しせまん、希望は社會の婦人が共に社會向上の爲に團結され度いと思ひます。
一、クラス會を充分利用し度と考へて居ります。私共の生活を向上させるためにも。
一、團體が一致しない爲、入ることを希望しません。
一、或るクラブに加入して居りますが主義が私に不適當なので止めました。
一、今はどの會にも入つて居りませんけれども適當な會があれば、入りたいと思つて居ります。
一、行く〳〵は處女會を向上させ度と思つてゐる。
一、團體等に出入を希望す。
一、私は公職にあるのでかかる事は致しません。

第三十一表・團體所屬の有無（實數）其一

業務別	團體に所屬して居るもの	團體に所屬して居らぬもの	團體組織の希望及計畫のあるもの	計
教師	七八人	四一人	一三人	一三二人
タイピスト	五	一九	二	二六
事務員	五七	二二七	八	二九二
店員	一八	一五〇	一	一六八
看護婦	三	三七	一	四〇
交換手	五〇	一九〇	二	二四二
計	二一一	六六四	二五	九〇〇

比例（其二）

業務別	團體に所屬して居るもの	團體に所屬して居らぬもの	團體組織の希望及計畫のあるもの	計
教師	五九・一%	三一・一%	九・八%	一〇〇・〇%
タイピスト	一九・〇	七三・三	七・七	一〇〇・〇
事務員	一九・五	七七・三	二・八	一〇〇・〇
店員	一〇・七	八九・三	—	一〇〇・〇
看護婦	七・五	九二・五	—	一〇〇・〇
交換手	二〇・七	七八・五	〇・八	一〇〇・〇
計	二三・四	七三・八	二・八	一〇〇・〇

配偶別に依る團體所屬の有無　其三